

「中心市街地活性化計画」の策定について（改訂継続）

昨年5月以降、コロナ禍がようやく落ち着き、市内では桐生八木節まつりをはじめとする各イベントが再開されました。中心商店街では桐生市と桐生商店連盟協同組合が連携し、桐生版スモールビジネスサタデーと題して「100円商店街 in 桐生」を開催するなど新しい試みも行われました。

このようにイベントでの集客は一定の成果を上げていますが、イベントのない日常は、相変わらず本町通り、末広町通りは閑散とし、賑わっている状態とは程遠く、繁華街の仲町も言わずもがなです。

近年、市の「新店舗開設促進事業補助金」によって新しい店舗は増えていますが、人口減少著しい中、消費者となる人口は年々減少していて、多くの店舗が厳しい経営を強いられているのが実情です。観光によって来街者を増やそうという試みも、残念ながら道半ばと言わざるを得ません。

桐生市は「桐生市コンパクトシティ計画（立地適正化計画）」を平成31年に策定しています。「人口を街中（居住誘導区域）へ誘導する。また、都市機能誘導区域に必要なインフラを集中させ、持続可能な街づくりを目指す」としていますが、目に見える成果は上がっていないようです。

以上のように、ますます空洞化する中心市街地・商店街を活性化するには現状の施策だけでは不十分で、今一步踏み込んだ施策といえる「中心市街地活性化計画」の策定を強く要望いたします。それによって、近未来の青写真を描く必要があると考えます。

桐生市からの回答

中心市街地の活性化につきましては、新型コロナウイルス感染症の5類への移行から1年が経過し、休止や中止されていたイベントが再び開催されるようになり、令和4年からは桐生版スモールビジネスサタデーの趣旨にご賛同いただき、桐生商店連盟協同組合及び各商店街振興組合のご理解、ご協力のもと、「100円商店街 in 桐生」を開催していただきました。市が同日に実施した電子地域通貨「桐ペイ」のイベントキャンペーンとも相まって、中心市街地の広範囲に渡って多くの来街者で賑わいました。

令和6年度は「スモールビジネスサタデー促進事業補助金」を創設し、桐生商店連盟協同組合が主体となり、商店街が一体となって実施する、地元での買物を促進する取り組みを支援してまいりますので、イベント以外にも商店の魅力を発信し、日常の集客につながる取り組みにぜひご活用ください。

また、これまで市が継続して実施してきた「新店舗開設促進事業補助金（旧空き店舗活用型新店舗開設・創業促進事業補助金）」などにより、新たな店舗が出店することで、近年、まち中に個性的な店舗が増えていると感じるとのお話をいただく機会が増えております。この良い流れを継続していけるよう、普段からまち中の様子の把握に努めてまいります。

「中心市街地活性化計画」の策定につきましては、事業者の皆様はもとより、当該地域

にお住いの皆様などの気運の盛り上がりが必要であると考えております。これまでは、平成30年度に、貴所並びに桐生商店連盟協同組合の連名により、「桐生市中心市街地活性化基本計画の策定並びに中心市街地活性化協議会組織化に向けて」としてご要望をいただき、令和元年度に貴所、桐生商店連盟協同組合、桐生市の三者による「桐生市中心市街地活性化に向けた情報交換会」が開催されました。

この情報交換会は、今後も継続して開催していく方向性が確認されており、市といたしましては、事業者や民間団体の自主的な取り組みを促進するため、中心市街地の活性化やまちづくりに関して、貴所や桐生商店連盟協同組合と継続的に協議を行ってまいりたいと考えております。

[回答担当] 産業経済部商工振興課商業金融担当